

三心を磨く

学校だより NO. 27

令和元年10月10日(木)発行

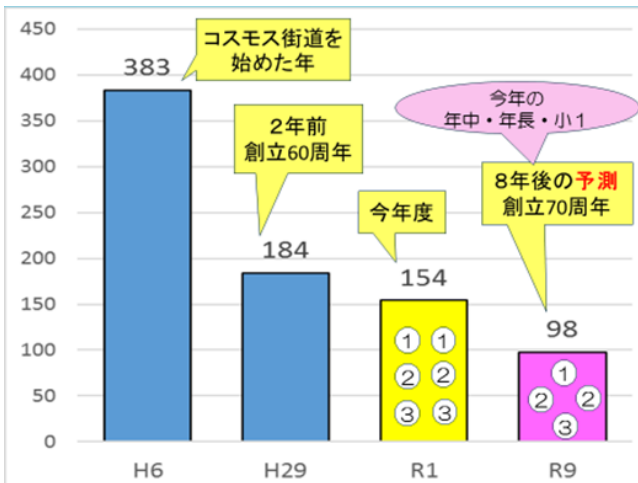
須坂市立東中学校

文責：金井勝久(教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇10月校長講話～コスモス街道のこれからについて自分の意見をもつ～

約4ヶ月前の6月12日(水)朝、今年度2回目の「校長講話」が行われました。(詳しくは学校だよりNo.10参照)その際、学校長は、「正解がない」「正解が1つではない」問い(問題)を生徒たちに投げかけ、さらに1枚の



グラフ(左)「東中学校の生徒数の推移」を提示し、

東中学校の行事や生徒会活動などが、今のままだとすると、8年後の生徒たちは、どのような問題に直面するだろう？

について、東ミーティングを開き、生徒たちが仲間たちと話し合いを行い、それぞれが考えました。

生徒たちは、この問題を真剣にとらえ、自分の問題として受け止め、それぞれが考えをもちました。そしてそれらの考えが学校長へ提出されました。

○生徒たちが考えた「未来の東中学校の生徒が直面する問題」とは… (生徒たちの考えより抜粋)

- ・人数不足で今までのような清掃や分担ができなくなる ・生徒会活動が困難になる。(委員会の数が減る)
- ・資源回収や各種回収活動で集める物の総数や量が減る。(須坂荘に車イスを贈る活動ができなくなる)
- ・他校との合併が必要となる。・チャレンジランキングができなくなる。 ・部活動が「減る」か「無くなる」。
- ・コスモス街道の作業がこれまで以上に大変になるか、存続できなくなる。 ・応援の声が小さくなる。
- ・東祭が縮小される(1日開催になる。歌声がさみしくなる。モザイク壁画がつかれなくなる)
- ・縦割りのチーム分けができなくなる。(縦割り清掃ができなくなる。縦割り活動ができなくなる)

そして10月9日(水)、学校長は、今年度第5回目の「校長講話」で、この「問い」の続きの授業を行いました。

まず学校長は、9月24日に、ニューヨーク国連本部「気候行動サミット」において、将来を担う世代の代表として、77カ国の指導者に向かって、「私たちは絶滅にさしかかっているのに、あなたたちが話すのは金と永遠の経済成長というおとぎ話だけ」と批評し、「全ての未来世代の目は、あなたたちに注がれている。私たちを失望させる選択をすれば、決して許さない…」と堂々と演説したスウェーデンのグレタ・トゥンベリさん(16歳)のスピーチや、東祭の英文スピーチで「地球温暖化への心配と警鐘」を語った3年1組の「金丸世羅さん」の主張から、「持続可能な未来のために」という、キーワードを導き出しました。そして、「正解がない問題、正解が



一つではない問題は世の中にたくさんある」ことを確認し、「問題を先送りし、自分は関わらない」「誰かが出してくれる答えについて行く」といった姿勢ではなく、「誰かと協働して、自分で答えを出していく」姿を求めました。

今回の問いは「持続可能な東中のために…」にかかわって、生徒たちが最も気にかけている問題であった、「コスモス街道のこれからについて」が問われました。6月12日の校長講話にあったように、8年後の東中は生徒

の減少が進み、全校生徒が98名、学級数は1年が1クラス、2年は2クラス、3年は1クラスになってしまいます。
(12年後は、全校生徒が67名と推計されます)この現実を踏まえ、学校長は、

このままでは持続困難 コスモス街道のターニングポイント である

と語りかけました。体育館内は静まりかえり、天井を見上げたり、床を見つめたり、生徒たちは考えました。

「あすま山岳」(H21~H30)より

- ・コスモス街道は**伝統**
- ・ゴミがなくなったと聞きました
- ・地域の皆さんがきれいと感じ、喜んでくれればそれでいい
- ・金賞をもらうことができた
- ・定植や手入れを通して、全校で一つのものを作り上げる達成感を味わえた活動
- ・委員会の数が減り、仕事がとても増えた
- ・来年は金賞を取ってほしい



～コスモス街道への私たちの願い～

この地での花作りの活動は平成6年度の校舎改築を機会にスタートし、それ以来、全校で毎年取り組んできています。

平成11年度からはコスモスに変わってサルビアを植えるようになり、平成12年度には生徒会活動の重点として「私たちのコスモス街道を創り上げよう」を掲げ、私たちの手によって苗から花を育て、**全校生徒一丸**となって取り組みました。

コスモス街道の歴史は、先輩方の情熱と、地方の方々の協力と共にあります。植えるものが、コスモスから他の花に変わろうとも、**その精神は今後も受け継がれていってほしい**と思っています。

This Cosmos Street is overflowing with the joy
AZUMA Junior High School students

「全国花いっぱいコンクール」学校の部 環境庁長官賞受賞記念 平成12年度生徒会一同



・コスモス街道は**伝統**

- ⇒長い間続いたから「伝統」?
- ⇒「伝統」ってどういうこと?
- ⇒何が「伝統」なの?
- ⇒「伝統」だからやってるの?
- ⇒何のためにやってるの?

伝統とは…

ある集団・社会において、歴史的に形成・蓄積され、世代をこえて**受け継がれた精神的・文化的遺産や慣習**。

(出典 三省堂/大辞林 第三版)



「道路にゴミを捨ててほしくない…」「美しい花を植えれば、ドライバーはゴミを捨てないだろうか?」「どんな花がいいのかな?」「コスモスはどうか?」「サルビアにするか?」25年前から、東中の先輩たちが全校で考え、話し合い、形を変えながら今や「伝統」となって今日に至るコスモス街道です。

では、「伝統」って何なのでしょう?「伝統」とは…生徒たちは、学校長のつくった画像を見ながら、時には隣に語りかけて自分の考えを巡らせます。

そんな中で、さらに学校長は、「あなたがコスモス街道の取り組みから受け継いだ精神とは何だろう?」「次の世代に受け渡していきたい精神とは何だろう?」そして、「それは何のために(目的は何にか)やるのだろうか?」と、生徒たちに問いました。すると生徒たちは自分の答えを必死になって考え、それぞれ探します。でも、簡単に答えは見つかりません。「続けたい」けど「続けられない」状況がある。「やめてもいい」って思うけど、自分たちの代では「やめられない」気がする。

生徒たちの心は葛藤し、大いに悩み・考えます。

コスモス街道の問題は、正解が1つではありません。だからこそ難しく、様々な意見・友だちの考えが大切となり、誰もが納得ができる答えを探すことにつながって行きます。

長年にわたる先生方の不安・心配

【安全確保の問題】

放課後の活動 ⇒ 職員が引率できず、生徒任せ

◎交通事故 ほとんどの生徒にとって通学路ではない道路
大型トラックや猛スピードで走る車が多い

◎水難事故 水くみのため鮎川まで降りなければならない

- ・多い水量
- ・勢いのある流れ

今までよく事故が起きなかった
これからも起きない保証は?



【時間確保の難しさ】

◎年間で授業8時間分(その内半分が移動時間)

◎放課後週1回程度の水やり⇒部活動、東祭準備に影響

◎花の盛りを見届ける時間が確保できない

学校長は、「伝統＝精神」と説明し、先輩たちの思いや願い、地域の皆さんからの賛辞や期待などが、その精神の中に宿っていることを話しつつ、職員や保護者、地域の皆様が感じている不安や心配も生徒たちに伝えました。各学級で話し合いが始まっています。結果ではなく、その話し合いの過程を大切にしたいと願う学校長です。